

令和4年度第2回 市民活動・ボランティアサポートセンター運営会議 会議録

日 時 令和4年11月4日(金) 10:00~12:00

場 所 姫路市市民会館 5階 第11会議室

出席者 構成員7名 事務局5名

(構成員) 藤本 真里 座長 米谷 啓和 氏 井上 清美 氏
大西 麻衣子 氏 橋 正人 氏 前川 裕司 氏
岩田 和代 氏

(事務局) 市民参画部 平石部長、市民活動推進課 門口 課長
市民活動・ボランティアサポートセンター 佃 所長 岸本 係長 得平 主任

次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 2022 ひめじ夏のボランティア体験について (報告)
- (2) 第7回防災推進国民大会 2022in 兵庫 (ぼうさいこくたい) について (報告)
- (3) センターの登録団体等へのアンケートの実施と結果について
- (4) 第10回ひめじおんまつりの進捗状況と今後のひめじおんまつりについて

3 閉 会

会議の進行記録（要点記載）

事務局：議題1「2022 ひめじ夏のボランティア体験について（報告）」を資料1に従って説明

座長：何か質問や意見等があれば発言を

構成員：申込方法としてメールの他にLINEを利用してはどうか。LINEは申込の記録が残るので、確実性がある。

事務局：意見を踏まえ、検討していきたい。

事務局：個人情報に関わることなので、安全性と機能性のバランスを考慮しなければならない。

事務局：議題2「第7回防災推進国民大会 2022in兵庫（ぼうさいこくたい）」について（報告）」を資料2に従って説明

構成員：病院でコロナ対応をされた医療従事者を対象に、こころの健康に関する調査事例のセッションに参加した。社協は、災害が起こった際には災害ボランティアセンターを運営することになり、その業務に職員は一日中携わることになる。今、メンタルヘルスに取り組んでいることが、災害が起こったときに力を発揮できることを頭に入れながら、全ての職員に対応できるようにしていきたいと思っている。

構成員：従来の自治会や行政機関が対応している防災対策だけでは、非常時には対応しにくいリスクがあると思う。NPO等と連携しながら柔軟に対応していく必要性を感じている。平常時から顔の見える関係づくりが重要であると内閣府も提言している。その一環として、全国の事例としてどんな取り組みをしているのか知るために、今回出展させてもらった。

座長：今後、災害ボランティア支援研究会はどのようなことをしていくのか。

構成員：情報共有会議のようなものを正式にスタートさせるまでは、災害に関する情報を収集し、緩やかな研究会としてつながりを作っておきたい。

構成員：災害の種類も多様化しており、いかに平時のときに関係をしっかりとっておくかが大切である。

事務局：議題3「センターの登録団体等へのアンケートの実施と結果について」を資料3に従って説明

事務局：アンケート項目の中で、ひめじおんまつりの今後のあり方についての無回答の割合が約4分の1もあったのが気になる。

構成員：コロナの影響で活動しにくくなり、解散するところが増えているのではと心配している。客観的なデータがつかめていないので、もし、そういうことがわかれば今後の活動の参考になると思う。

構成員：このアンケートの目的や意図が何なのか見えてこない。アンケートに答えてくれた団体や個人に対して、あまりフィードバックするものがないように思う。もう一度再設計してみてはどうか。

事務局：アンケート項目で何が足りないかわからないので、助言をいただければありがたい。

事務局：2年後にどれくらい数字が変動しているのか確認するため、内容は基本的にはほぼ同じにしている。

事務局：今回から、活動する中で何か困りごとがないかを質問事項に追加した。

構成員：もし可能であれば、アンケートの設計について事務局だけではなく、運営会議の中で検討してもいいのではないかと。アンケートの結果をどう生かしていくか。少数の声に耳を傾けることも必要である。

座長：アンケートの設計は難しいと思う。重要なことは、答えてくれた人に対して、説明できる内容かどうかである。先ほど意見が出たが、今後アンケートを設計するときには、この会議の場で議題に挙げてもらえればよい。

アンケート全般をみると、登録している団体や個人の意見について、センターが十分に把握できていないような気がする。その他では、あいめっせや国際交流センターの登録団体にアンケートを実施しているのはなぜか。

事務局：それぞれが登録制度を持っており、センターと重複して登録しているところもある。センターに登録していない団体についても、センターの周知になり、また、意見を聞くことは今後の事業運営の参考になるので、各所管課の協力を経たうえ、アンケ

ートを実施している。

構成員：アンケート内容が登録団体の活動、センターの事業、センターのあり方の3本柱でいいのか。また、この会議はアンケートの設問に対する意図や構成の枠組みについて議論する場であるが、全体像が見えてこない。

構成員：現段階では分析できていないので、これは資料でしかない。質問の意図がわからないので、検討しようがない。

構成員：一例を挙げれば、地域課題の解決についての質問について、何を意図としているのかわからない。

事務局：令和2年度に第4次市民活動・協働事業推進計画を策定する際、市民活動推進課で市民意識調査を実施しており、それに並行してセンターでもアンケートを実施した。その際にこの設問を設けるよう指示があった。今回も課に確認した上で設問に入れている。

事務局：市民活動推進課の自治会担当からの要望で、前回のアンケートから質問項目を設けた。自治会担当の方でもボランティア団体に協力してほしいかという質問をしている。現在、姫路市における自治会の組織率は比較的高いが、今後高齢化や担い手不足による低下によって、ボランティア団体と連携しなければならない時代がやってくる。そうした意識について確認する目的である。

構成員：自治会も町ごとに縦割りになっているという課題があるので、その結果を知りたい。

事務局：いろいろ聞きたいが、質問項目を増やすと回答率が下がってしまう。

座長：アンケートの意図が見えるようにすれば、回答率は上がる。

構成員：アンケートの結果は公表されるのか。答えてくれた方にフィードバックしないといけない。

事務局：今まではしたことがないので、今後検討したい。

事務局：アンケート結果をひめじNPO・ボランティア通信に掲載するか、送付するかになる。

構成員：個人登録者のアンケート結果は、自発的で協力的な人が回答しているので、貴重なデータになる。登録団体については、自分たちの活動が伝わっていくことが客観的に示せるアンケート内容にするとよい。

構成員：個人と団体のマッチングについて、また、個人登録者に対しては、どういう思いでセンターに登録しているのか聞いてほしい。

座長：個人と団体では、アンケートで聞く内容は異なる。個人の中にまだ活動を始めていない人がいるので、それをどうサポートしていけばいいのか把握する必要がある。

構成員：個人と団体で、アンケート内容を変えてはどうか。

事務局：次回は、会議でいただいた意見を参考に作成したい。

事務局：議題4「第10回ひめじおんまつりの進捗状況と今後のひめじおんまつりについて」を資料4に従って説明

構成員：アンケートの結果を見ても、従来の形でのひめじおんまつりの継続を望む意見が多いので、見直しをするのであれば、検討会を立ち上げる必要があるのではないか。

構成員：ひめじおんまつりという名前が無くなるのはもったいない。実施形態が変わっても、ひめじおんまつりの冠は残すべきだ。

構成員：「ひめボラ」という新たな形で実施していくのなら、今後どのようにやっていくのかを主催者側だけで決めるのではなく、参加団体を含め、みんなで話し合う必要がある。

構成員：来年2月の開催時に参加団体にアンケートをしてはどうか。また、日時や場所を決めて実施すると今までと変わらないので、公民館や市民センターなどいくつかの拠点を設けて選べるようにすれば、参加団体も増えると思う。姫路駅前には人が多いように見えるが、開催の準備と駐車場の確保が課題になる。また、時期によっては、観光客は足を止めずに通り過ぎてしまう。

座長：今のひめじおんまつりは、登録団体の思いで始めたイベントであり、提案があったものはひめじおんまつりとは別物だ。アンケートの結果だけではわからないと思う。

次のひめじおんまつりをどうするのかについては、1年かけてじっくりと議論をする必要がある。一方、市としては、今後説明のあった「ひめボラ」という新しい事業を行うことに意義があると判断したのだと思う。

事務局：ひめじおんまつりを実施する中で、目に見える形で第三者に説明できる効果を示す必要がある。もちろん、今まで行ってきたひめじおんまつりも一定の効果があったが、そこからステップアップしていくことも必要だ。新たな事業については、いただいた意見を参考にしつつ、現状の予算が確保できるような計画を立てていきたい。

座長：市が予算の運用を行っているので、自立した組織になりにくい。次のひめじおんまつりに対するビジョンはどうか。

事務局：今のひめじおんまつりは、第10回で終了と考えている。

座長：今後、市民主体の活動をどうするのが重要であり、ひめじおんまつりを終了して次をどうしていくかの議論が必要である。

構成員：行政と連携するイベントは継続が一番難しい。行政が事務局を担うと、市民にとっては安心であり楽である。しかし、回数を重ねても変化がないので、どうしてもワンパターンになってしまう。それを覚悟の上、継続していくという考え方もある。一方、事務局や実行委員会、予算等を市民が主体となって運営していくのが本来のあり方であるが、市民にそこまでのパワーがあるかどうか疑問である。参加者に聞いても、自分の団体をPRしたいだけで、今後どうやっていくかまでの意見は出ないと思う。来年度以降、ひめじおんまつりのあり方をどうしていくのか、みんなできちんと話し合った方がよい。

構成員：今のひめじおんまつりは、ボランティアに興味のない人がたまたま見に来て、活動発表を目にすることで、ボランティアに興味を持つきっかけになっている。

構成員：ひめじおんまつりに参加している団体、参加していない団体、個人登録者の3つの要素を考慮しつつ、最適な実施方法をもう一度構築していくのがよい。これまでの形で参加できなかった人も参加できるようにすればよい。

構成員：ステージ発表をする場所は、駅前広場にこだわらずに市民会館大ホールやあいめっせホールでもよい。

座長：市民が主体となって、市民活動全般を支援することは本当に難しい。それは行政でないとできないという側面はある。

事務局：今のひめじおんまつりのステージを見ている、観客が少ないという声がある。何かいい意見があれば、参考にしたい。

構成員：ブース出展団体とステージ発表団体がもう少しうまく交流できたら、いいイベントになると思う。

構成員：11月5日に姫路駅周辺で「姫音祭」が行われるが、これは音楽やダンス、食に絞って実施している。民間主体で、一部は国からの補助金で実施しており、新しい事業の参考になると思う。これまでのように、どこかで集まって交流を図るとするのは必ずニーズがあるので、場所と日時を決めて実施すればよい。

座長：今のひめじおんまつりを一旦休止にし、市民主体の交流事業については検討するという考えは持っているのか。

事務局：交流については、ひめじおんまつり以外でも意見交換の場を設けるなどが考えられる。交流の場を全くなくすつもりはない。ただ、予算は限られているので、今のひめじおんまつりの予算を使うことになる。

構成員：アクリエひめじの利用についてはどうか。

事務局：市が利用しても、減免の対象にならないので予算的に厳しい。

構成員：市が示した案で進めるのであれば、来年のひめじおんまつり開催当日のクロージングイベントで説明したいと考えている。

構成員：関係者に事前に伝えておくべきだったと思う。突然の見直しは、市民活動の支援という点からどうかと思う。

座長：事前に、ひめじおんまつり実行委員会の中で示した方がよかったのではないか。

構成員：ひめじおんまつりの終了という素案にある文言が気になる。

事務局：ひめじおんまつりの休止という考え方が参考になった。一旦はひめじお

んまつりに変わる新しい事業として提案するつもりだ。

構成員：今までのひめじおんまつりの課題を受けて、「ひめボラ」という新たな事業形態を選択するのはいいことだと思う。これまでの運営会議でも意見があったので、唐突な話ではない。

構成員：どのようにボランティアをサポートしていくのかを中心として、今後の事業を考えるべきだ。